フィリピンの戦後の歴史

090781023
佐藤宏紀

第1章　独立後のフィリピン

1)概要

A)面積

約30万平方キロメートル

B)人口

約9401万人

C)気候

熱帯モンスーンに所属

D)民族構成

マレー系が大多数

E)言語

主にタガログ語

フィリピン全図
ルソン海峡
バブヤン諸島
アパリ
ラオアグ
ビガン
ツゲガラオ
ポントク
ルソン島
サン・フェルナンド
リンガエン湾
バギオ
ボリナオ
タグバン
フィリピン海
タルラク
カバナツアン
ピナツボ山
ンヘレス
サン・フェルナンド
オロンガポ
マロロス
マニラ湾
マニラ
バタアン半島
パシイ湖
ラモン湾
南シナ海
コレヒドール島
カビテ
サン・パブロ
タアル湖
バタンガス
ロペス
ナガ
マヨン山
マリンドゥケ島
ミンドロ島
ビサヤ諸島
サン・ホセ
カラミアン諸島
サマール島
ビサヤ海
バナイ島
タクロバン
レイテ湾
イロイロ
バコロド
セブ島
レイテ島
セブ
ネグロス島
ボホール島
パラワン島
プエルト・プリンセサ
ドゥマゲテ
ミンダナオ海
ブツアン
ブルックス・ポイント
スルー海
カガヤン・デ・オロ
マラウィ
イリガン
ラナオ湖
バガディアン
ミンダナオ島
コタバト
ダバオ
アポ山
モロ湾
ダバオ湾
サンボアンガ
バシラン島
ヘネラル・サントス
ホロ島
スルー諸島
タウィタウィ島
マレーシア(サバ)
セレベス海
タウィタウィ諸島
シブツ島
インドネシア
フィリピン海溝

2)フィリピン独立

A)スペインの植民地(1897年)

ア)米西戦争(1898年)

アメリカが勝利

→フィリピン統治権獲得

B)アメリカの支配

ア)教育→英語の習得を強制

イ)自由貿易体制

モノカルチャー経済

→外国貿易はアメリカに依存

C)フィリピン議会開設(1907年)

ア)独立を主張

→フィリピン自治法制定

イ)フィリピン独立法成立(1934年)

→10年後の独立を約束

D)太平洋戦争(1941年)

ア)日本軍による真珠湾攻撃

→戦争が勃発

→フィリピンは日本の占領下

イ)日本兵による物資略奪
深刻な食糧不足が発生
→フィリピン荒廃

E)フィリピン共和国誕生(1946年)

ア)マヌエル・ロハス
大統領に就任(1946年)

イ)アメリカとの二つの協定

ⅰ)フィリピン復興法
14億ドルの援助

ⅱ)米比通商協定
独立後28年間
→アメリカの経済的支配下

3)独立後の試練

A)フクバラハップ

ア)戦前の農民運動

→中部ルソンで結成(1942年)

イ)目標

日本軍追放と地主打倒

ウ)アメリカ軍

武装解除と指導者逮捕を開始

エ)ロハス政権

米作刈分小作法制定(1946年)

武力弾圧を開始

B)副大統領エルピディオ・キリノ

ア)ロハス大統領急死後

→大統領に昇格(1948年)

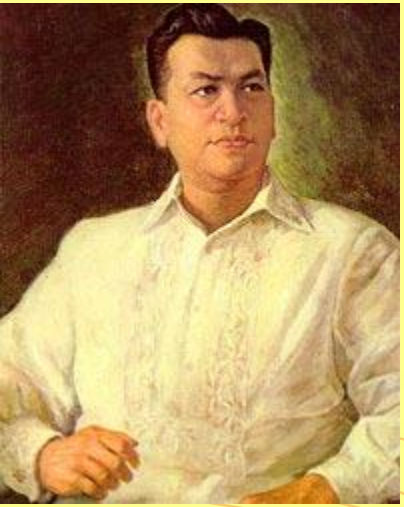
イ)フクバラハップと和平交渉開始

交渉は3カ月で決裂

ウ)ラモン・マグサイサイ

フクバラハップ掃討作戦を開始

→フクバラハップ敗北



C)ラモン・マグサイサイ

ア)フクバラハップ討伐の名声

→大統領に就任(1953年)

イ)農業改革

ｉ)農業小作法制定

ii)土地改革法制定

iii)公有地入植事業開始

iv)農業協同組合育成

→いずれも期待以下

D)ディオスタード・マカパガル

ア)大統領に当選(1961年)

イ)新たに土地改革法を制定

ウ)二段階土地改革を開始

第2章　マルコス政権

1)マルコス政権

A)フエルナンド・マルコス

ア)大統領に就任(1965年)

ｉ)財政を好転

ⅱ)アメリカに軍事的協力

→大統領再選を達成

B)反政府運動

ア)学生運動(1970年)

目的

→マルコスの権力政治を打倒

2)戒厳令

A)戒厳令布告(1972年)

ア)理由

反マルコス派を弾圧

→独裁体制を確立

イ)政策

ⅰ)マルコスの政敵を逮捕拘禁

ⅱ)すべてのマスメディア閉鎖

ⅲ)重要な公共事業の政府管理

ⅳ)海外旅行の禁止

ⅴ)デモ・ストライキ・集会禁止

Ⅵ)銃砲刀剣類の所持を禁止

3)戒厳令後の社会

A)新制度・政策

ア)政治面

特権的政治化家層

→権力構造から排除

イ)経済面

ｉ)土地改革法公布

ii)外資の導入が積極的に推進

→政治的不正と経済的矛盾拡大

C)ニノイ・アキノ暗殺

ア)マルコスと対立

→アメリカのニューヨークに亡命

イ)マルコス打倒のため帰国

→空港で暗殺

ウ)暗殺事件後

→反マルコス運動が開始

4)ピープル・パワー革命

A)繰り上げ大統領選挙

ア)体制不安が深刻化

→マルコス政権に強力な圧力

イ)大統領選挙の実施(1986年)

反マルコス勢力

アキノの妻コラソン・アキノ

→大統領選の候補として指名

ウ)ピープル・パワー革命

マルコス陣営の得票不正判明

国軍改革派決起

→100万の市民が支持

第3章　アキノ政権～アロヨ政権

1)アキノ政権

A)軍事クーデター

ア)鎮圧

軍の統制派に依存

国防相ラモス

→アキノの信頼を獲得

イ)経済問題・土地改革

→人民の期待以下

2)ラモス政権

A)フィデル・ラモス

ア)大統領就任(1992年)

前職のアキノから後継者指名

イ)エネルギー対策を前進

→経済を活性化

ウ)独立100周年

各地で独立式典が盛大に開催

3)エストラダ政権

A)ジョセフ・エストラダ

ア)大統領就任(1998年)

庶民派イメージ

→低所得者に広く支持

イ)不正蓄財疑惑

貧困問題などの重要な政策

→個人的な利益を追求

B)ピープル・パワー2

ア)再びピープル・パワー

政権交代を実現

4)アロヨ政権

A)グロリア・マカパガル・アロヨ

ア)大統領就任(2001年)

元大統領マカパガルの娘

イ)経済改革を前進

電力産業改革法

マネーロンダリング防止法

ウ)大統領選挙再選

選挙の不正疑惑や金銭問題

閣僚が大統領に抗議

→辞任

第4章　戦後の日本とフィリピンの関係

1)賠償問題

A)サンフランシスコ講和会議

ア)フィリピン側の主張

損失額すべて支払を要求

イ)日本側の主張

支払うべきもののみ

B)最終会議

ア)総額8億ドル

→20年支払で同意

イ)サンフランシスコ平和条約発効

日比間に外交関係が開設

2)日比友好通商航海条約

A)締結交渉開始(1960年)

相互に最恵国待遇を供与

B)条約の批准を拒否

マルコス大統領

→一方的に条約を批准(1973年)

3)経済発展

A)政府開発援助(ODA)

ア)日本→最大の援助供与国

B)貿易

ア)フィリピンの対日輸出品目

エビ類・銅精鉱・バナナが大半

イ)日本の輸入品目

自動車・機械類・鉄鋼が大半

C)海外出稼ぎ

ア)出稼ぎ

1980年代から急激に増加

出稼ぎ先→歌手やダンサー

D)日系フィリピン人

ア)在留邦人数

約18万人

イ)在日フィリピン人数

約21万人

4)経済連携協定(EPA)

A)EPA締結(2006年)

ア)看護師・介護士が日本で労働

イ)日本語実力テスト

日本政府

→日本語の学習を推進

B)合格者

ア)看護師候補者

415人受験→13人合格

イ)介護福祉士候補者

95人受験→1人合格

第5章　今後の展望

1)現状

A)ベニグノ・アキノ三世

ア)大統領就任(2010年)

中間層・高所得層に支持

B)官民パートナーシップ方式(PPP)

ア)目的

公共サービスを運営

→行政の効率化

イ)課題

投資リスク大

将来性への懸念

2)フィリピンの今後

A)日比関係

ア)年々緊密化

今後も緊密化を強化

→牽引役として協力関係も強化

B)フィリピンの問題点

ア)経済成長の停滞

政治体制の混乱・汚職と腐敗

イ)フィリピン人の可能性

フィリピン人の海外進出

→経済発展前進